

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2021 年 4 月～6 月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

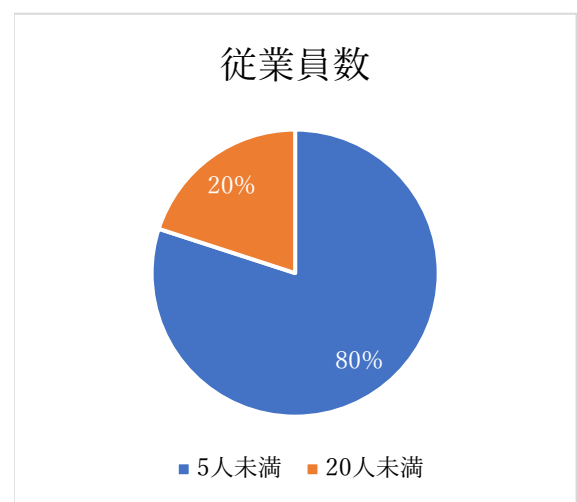
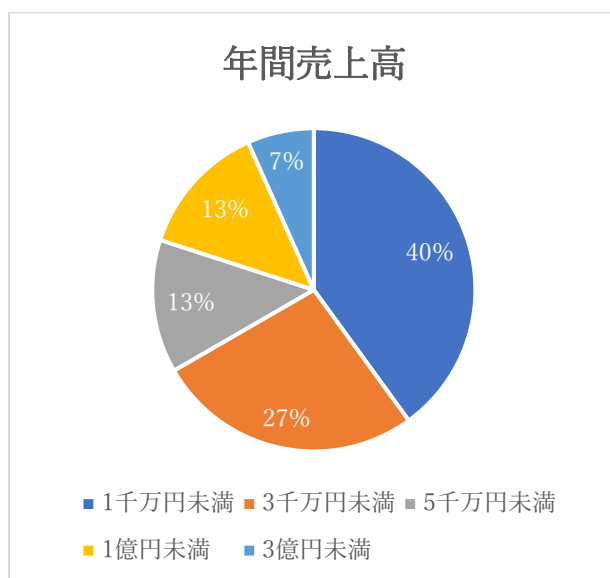
3. 調査事業者

① 製造業	3 社
② 建設業	2 社
③ 小売業（卸売業を含む）	4 社
④ サービス業	6 社

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表 1：2021 年 4 月～6 月の DI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-20.0%	33.3%	0.0%	-25.0%	-50.0%
販売単価	-6.7%	0.0%	0.0%	-25.0%	0.0%
経常利益	-33.3%	33.3%	-100.0%	-25.0%	-50.0%
資金繰り	-13.3%	0.0%	-50.0%	-25.0%	0.0%
人材確保	-6.7%	0.0%	-50.0%	0.0%	0.0%
景況感	-40.0%	0.0%	-50.0%	-25.0%	-66.7%

- 前回（2021 年 1 月～3 月）に比較すると、まだ全項目マイナスが続いているが、全体的に改善している様子が窺える。
- 特に、製造業が前回の急落から一気に持ち直している。前は茨城県内でも新型コロナウイルスの感染が急拡大し始めた時期であり、逆に今回の調査期間は比較的落ち着きを取り戻している時期だったため、感染状況が反映されているようにも推測できる。前回の急落が一時的なものだった可能性も高い。
- 一方で、建設業においては、売上高及び販売単価については小康状態だが、経常利益、資金繰り及び人材確保はさらに悪化している様子が窺える。
- 小売業及びサービス業は、低位ながら、さらなる悪化は免れている様子が窺える。

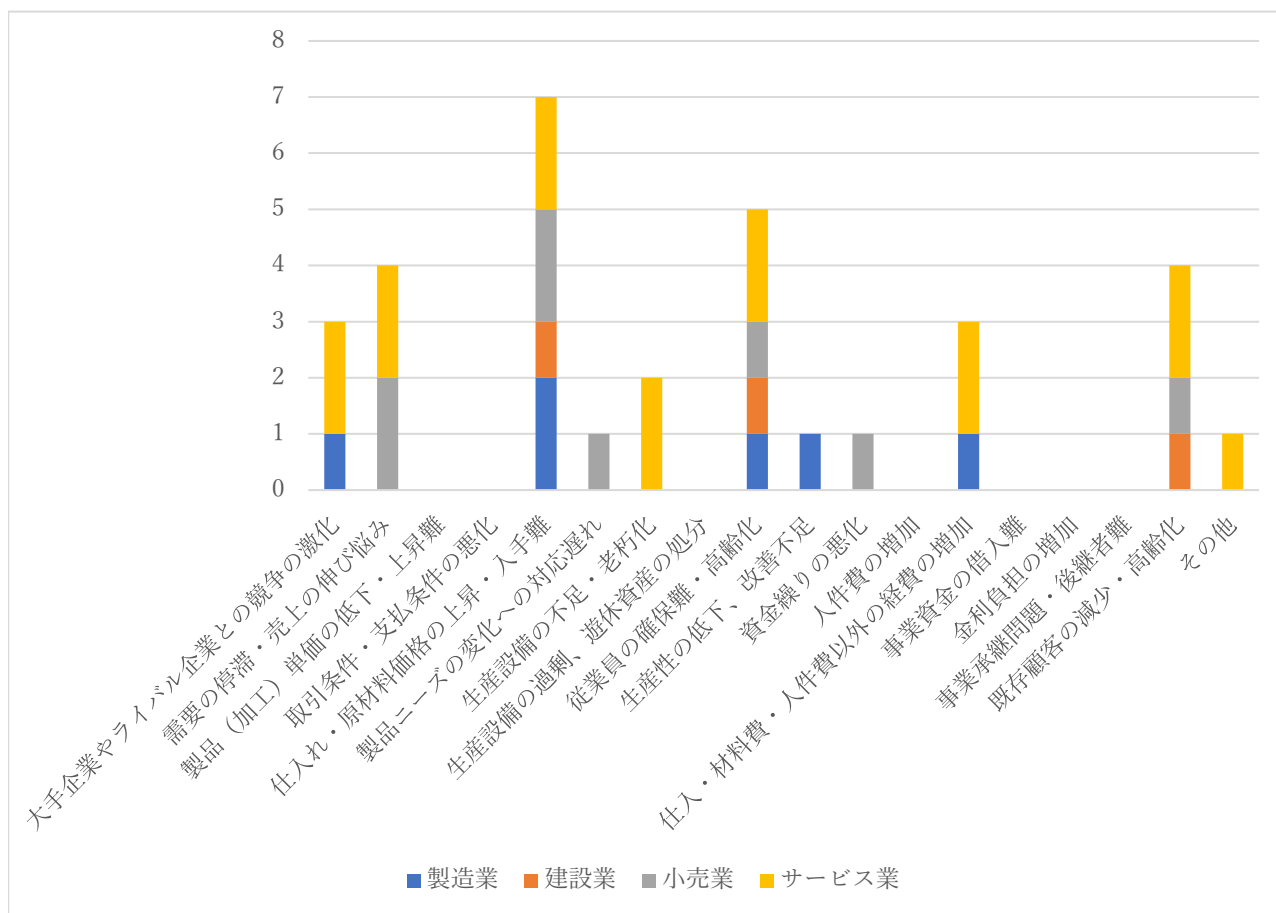
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2021年4月～6月の課題意識



- 前回と同様、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難が解消されていない状況が窺える。
- また、従業員の確保難・高齢化や既存顧客の減少・高齢化は相変わらず高い水準にある。
- その他の点では、前回から大きく変化した点は見受けられない。
- DI 値では、製造業の改善が顕著だったが、一方で、この課題意識の調査では、製造業に関する値は全く変化がなく、その背景は見えてこない。

Ⅲ. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

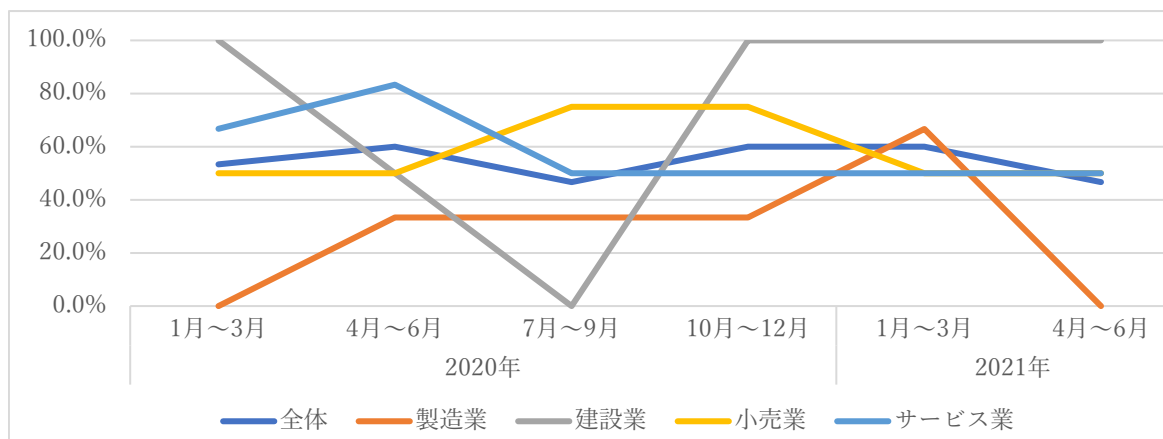
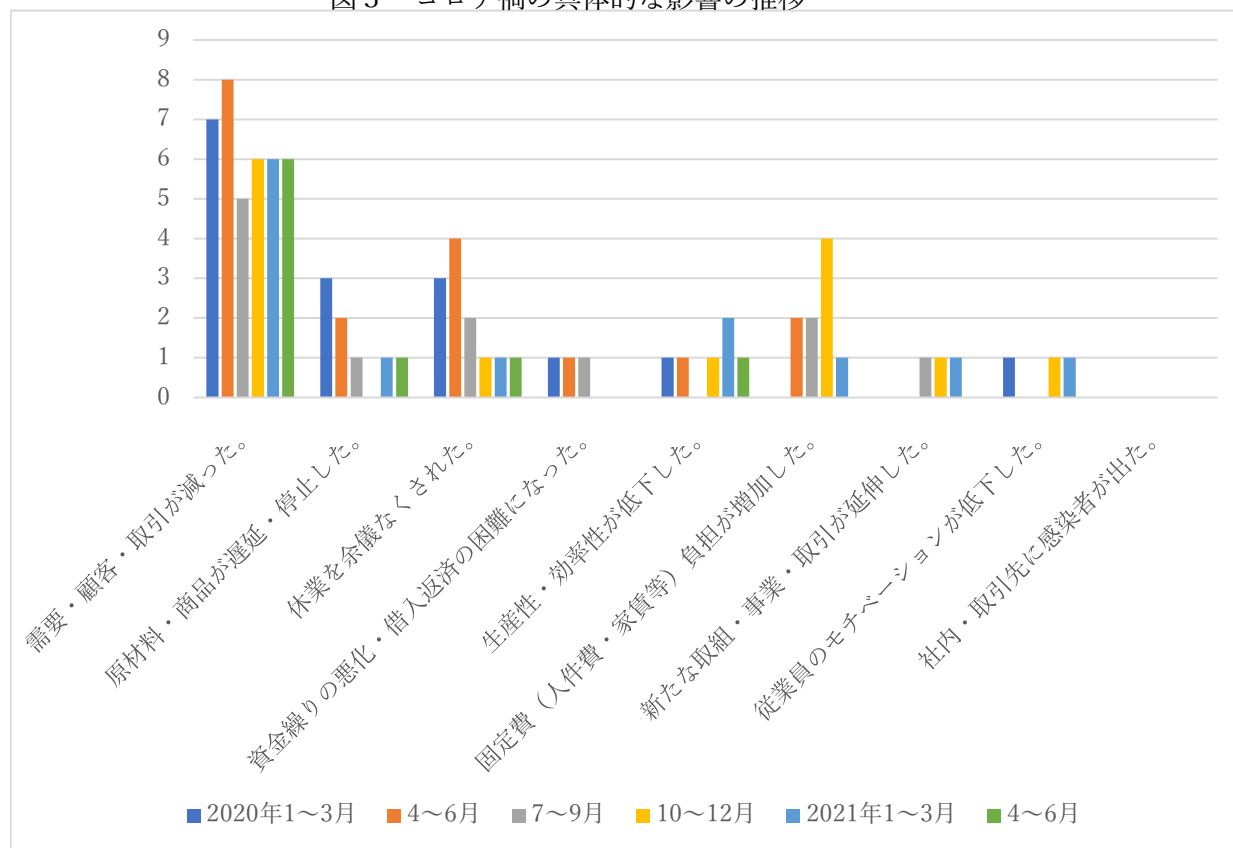


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 前回と比べると、特に製造業が大きく改善しており、DI 値の変化と合致する。DI 値分析で述べたように、やはり製造業の業況はコロナ禍の状況に大きく影響されているとわかる。
- 一方で、建設業は悪化の一途を辿っている。ウッドショックの影響やコロナ対策にかかる支出・負担が経営を逼迫させているとの切実な声もあり、これらが大きな要因となっていると推測される。
- 生産性・効率性、新たな取組・事業・取引、従業員のモチベーションについては、わずかに改善しており、事業活動の回復の兆しも窺える。感染状況が少し落ち着いてきていることが明るい材料につながっていると見ることもできる。

以上